

No. 1

兵種	還未屆時	死亡主任	死亡委員	保調長	保總長	課長
照合	照合					

及所見	資材入手ノ經緯	者		現		留守		人		本	
		現住所	上陸年月日	官等級	所屬部隊	現住所	現住所	死亡年月日時	死亡區分	本籍地	所屬部隊固有姓名
			昭和21年5月2日	陸軍少尉	南方軍司令部	父 氏名	昭和 年 月 日	戰病死	昭和20年1月31日午後	和 兵 兵 兵	和 兵 兵 兵
			上陸地名				遺骨、遺留品ノ有無	死亡年月日時	死亡區分	死亡證明書	死亡證明書
			鹿児島				遺骨、遺留品ノ有無	死亡年月日時	死亡區分	死亡證明書	死亡證明書
							遺骨、遺留品ノ有無	死亡年月日時	死亡區分	死亡證明書	死亡證明書

死亡者現認證明書

昭和 年 月 日
 民生部第一世話
 日調製

27-14

（附）六一五

現 明 等

水 橋 地
所 屬 部 隊

投 遞 兵 種 徵 集 年

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

死 亡 年 月 日

第 一 種 建 年 第 二 種 建 年
第 三 種 建 年 第 四 種 建 年

拜

御禮、振舞、御意致、其是、鑒臨、御健勝

の由、御意、御心、御祝致、

又、貴見には、云々、御意、御心、御祝致、

の由、御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

御意、御心、御祝致、

課長の正業毎に依願改められたる局より復員者の運

送情の文書もまた、又二月月中旬養成所紙務整理完了

了関係の所局より出張して来り大官史に私も直接

お逢ひのしと華業料其他の事迄依願して遣り

まゝにのむようあり終つたものと存して居りました

二月下旬御々 [redacted] 死に帰り終新所比又

就病に帰す事兄弟の死也なり 入年百後年比島より

羊死の状況に帰つて所と生氣を取らぬ事弟に逢つ

たうし之ぬえうり 曾此の榮を 病一 室外長引

この心にかかりし 曾此の病一 室外長引

故 [redacted] 兄は此の最老の致子にて生前日々に結実也

と考へ又従軍中も任務終了毎に平子に立寄り 故也

昭和 年 月 日

1257

3

養名用箋

珍一の証を以て其の全と見よの極親密一語

に居るまゝに [redacted] 君の致此に空路 [redacted] へ直接には言へ

此の極親密と云ふ全と痛信に堪えよん

故 [redacted] 君致此の状況は [redacted] 極西東東の所 [redacted] 君の

回憶の [redacted] と [redacted] 事 [redacted] 君より [redacted] 事

の [redacted] 思ひ [redacted] の [redacted] 事 [redacted] 君の

所居部隊は陸軍航空輸送本部第九飛行隊にす

階級は予備佐伍長に可加者然し軍人として之の [redacted]

身合は軍医として陸軍 [redacted] 祀 (利休官 [redacted]) として経年して

居るまゝ又航空局の [redacted] 即ち [redacted] 航空局の [redacted]

に [redacted] 経年して [redacted] 航空局より [redacted]

丁小の [redacted] 君は [redacted] 昭和二十年二月十九日 香港西

昭和 年 月 日

五七

6-13

2357

4

薬名用箋

約百五十軒の海上にありあり。当時御隊より行方不明

と一発表され終戦前（八月下旬頃）と思へる

予の戦死確認と同時、航空局航空官補（副佐）

に任官され居ります。身分関係が複雑で（大い

（航空局と部隊及陸軍航空官補）連絡不十分 事実上関係

の不分明より手廻りなどなつたものと念ひます。私は戦死確認

と生後の文書は終戦前後に（日記等を居ります）著成し

度精進して思ふに私共始終貴家の連絡されしもの

との意思の込め方なりならず、あつ時係り香の連絡す

る様は是より遅く此の様に候ふよりには致さぬものと

後悔して居ります。

是の戦死を確認（または同部隊より）同様

昭和 年 月 日

昭和

6-14

2358

5

薬名用箋

君は其在内地にて従事す御職() 同卜とあるは、
ポルトガル領のアモビロ不詳君() 君は

其後新渡喜成氏の勤務() ありは、終戦後住所

不明にて(新渡)開校() 現に命り是人の親友

に命り命りより貴家の為の状況と張りありやう

に命り() 同部隊に従事し() 長らく() 卒業と

より() 君等の遺骨() 加到君() 由() 部隊より() 知ら

せあり() 由() 張り() 六月() 頃() 当地() 居() ます() 慰安

宛() 考() り() どの() 誰() を() 葬() り() 居() る() 事() あり() 御() 見() せ() る() 事() あり() 御() 便()

を() 載() せ() 直() 下() 君() () 親() 友() 同() の() 令() 事() あり() 御() 便()

君() より() は() 其() 時() 直() 君() 友() 君() と() 同() 部() 隊()

にて() 同() 任() 務() 中() 同() 卜() と() 親() 友() () 行() 方() 不() 明() と() な() り() ま() した() 他() の() 二() 名()

昭和 年 月 日

五三

6-15

2359

6

桑名用箋

の教官の存亡を通知して宣致の依頼を以ての旨であ
 りまゝに [] 君も私の話を尋ねて後身局の急慢に整
 りて居りました。私も又、当地に居ります前層成所の書記
 に航空局(現死体保安部)の嘱託をしてゐる人に早速
 依頼の上と共にお救 [] 是の同僚達に連絡して一
 早之遣着の届きを早急に届ける要を願はせられ
 依頼の便を以て送付するに
 貴家よりお調べの場合には貴地方世話部へ今一度
 所居部隊名と在りませぬと通知してお問合せの旨と共
 に航空局の課務整理に取組んでおられ現役所
 東京御趣所已大手町通信者航空保安部宛の両方
 お問合せの旨を以て送付するに
 私の方より

昭和 年 月 日

K-16

の調査依頼程身は^た歎息保家新宛にやつて居ります
 又専ら此石明の事ありませら何事か遠慮願ふ
 拙宛不知名下あり 故 君は口首内月録の
 旨にありませし 好所なることあり申力致しませぬ
 生王知しし私に打下さる事秘にありませ
 一日の事と其靈の御霊の帰る遺族の皆信と共に
 故人の靈の安らがるらんことを祈り致しませ
 何事か御親と初め 孫にもよろしく御馳参下す
 尚私に御霊の此合奉り世間浄く之に良し御秘も出ませ
 是は私に承りませ、取敢て人外に迄は
 八月十一日



程の



拜

羊丸

昭和 年 月 日

55

6-17

事實証明書

本籍

死亡場所 沖繩縣宮古郡平良町字下里一九九九番地

徵傭軍屬

年 月 日生

右は軍屬として徵傭し軍の船舶改装造船工事に
に前記臨戦地域に於て従事申、昭和二十年
一月十日過勞により健康を害し病臥療養
申、昭和二十年二月二十三日營養失調により
戦病死せり

右証明する

昭和三十四年五月一日

元曉部隊宮古島駐屯部隊長
元陸軍中尉

龍 門 寺 二 寺

死 者 名 簿

死 者 の 現 状	本 籍 地	[Redacted]
	部 隊 名	第四航空隊
	職 務	一等飛行士
	目 録 氏 名	上野 英
	死亡した場所	カミヤ
	死亡した年月日	昭和20年2月(推定)
	死 亡 原 因	戦 死
	戦死の状況 場所、経過等 を記入する	カミヤ上空で行動中敵機に突撃を受け戦死
	戦死の状況 年月日、場所 を記入する	
	戦死の状況 を記入する	なし
死 者 の 現 状	部 隊 名	第四航空隊
	職 務	一等飛行士
	目 録 氏 名	上野 英
	死 亡 原 因	戦 死

28-13

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

現住所

所属部隊 独立歩兵中隊 夜
 所属部隊 第一〇七部隊 陸

徵集年 昭和五年 氏名 [Redacted]

右ノ者昭和廿一年二月廿八日 時
 分 [Redacted] ニ於テ 依リ戦傷

死亡シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和廿二年五月廿九日

所属部隊 独立歩兵中隊 夜
 所属部隊 第一〇七部隊 陸

官等級 陸士三等

氏名 [Redacted]

注意 一、死ニ地點、受傷部位、姓名等列明シアルモノハ附記ス
 一、職名ハ中、小隊長、班長、探偵等第ト附記ス

17-10

死 實 終 明 考

水 籍 地
所 屬 部 隊

官 等 級 氏 名

年 月 日 生

被 殺 兵 種 數 集 集 簿

死 亡 年 月 日 報 告 年 月 日 入 局

死 亡 場 所 和 他 人 不 同

死 亡 原 因 及 現 狀

遺 骨 有 無 及 明 確 否 (如 有 請 註 明 年 月 日 及 處 所)

遺 骨 有 無 及 明 確 否

遺 骨 有 無 及 明 確 否

遺 骨 有 無 及 明 確 否

遺 骨 有 無 及 明 確 否

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

池 田

昭三三九
五箇ノコニ号

聽取書

作製者氏名印

所屬部隊 陸軍軍醫隊

名死亡区分 陸軍軍醫隊 留洋者者氏名

北島 陸軍軍醫隊

陸軍軍長

戦死

北島 陸軍軍長

小隊

参考

一死亡者ト口述者ト関係

別紙通同却隊人等係

通知レリタリ

一死亡時概要

事項

一遺骨遺留品衛

右相違来之誤也

申述者官氏名印

41

昭和五年三月二十五日糧秣確保自的ヲ以テ北カマリネス洲グエット附近ニ

少尉(当時隊長)以下五名ヲ殺シ且日糧秣確保上自動偵察車二車輛

曹長等十八名糧秣積載上分隊ハラカレテ帰途々中「ダウエケ」部

落通過際路上高地ヨリ敵匪約四十名ヲ襲撃シテ一瞬ニシテ

戦死傷続々セルモ曹長ハ右大腿部ニ貫通銃創ヲ重傷ヲ受ケテモ

之ニ屈服セズ勇猛果敢之ニ突撃悲壯ナル最後ヲ遂ゲタリ

右現認証明ス

遺骨並ニ遺留品ナシ

第四航空軍第九航空情報隊

陸軍曹

人手功績
全隊
原山

1-14

被認定者 本籍

會社所在地

役名

昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理

陸軍 昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理

昭南支社 會計主任

右者 昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理
在勤中 昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理
昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理
昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理

右 證明人

高 證明人

本人 昭南支社 代理

證明人

昭南支社 代理

昭南支社 代理 昭南支社 代理 昭南支社 代理

昭南支社 代理